

社会福祉法人 楽山会  
第二椎の実子供の家  
平成2年度 事業報告

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内閣府より令和2年4月7日から5月31日まで緊急事態宣言が発令され、例年とは違った年度の始まりであった。三鷹市は保育所を休所とはしなかったが、令和2年4月9日に三鷹市長名で「緊急事態宣言の発令に伴う保育施設・学童保育所の登園(所)自粛の要請について」という文書を出し、保護者に対して最大限の家庭保育のお願いを行った。その結果、当園は4月から5月末までは2割弱～3割の出席者であった。医療従事者や介護職、金融機関等に勤めている保護者は出勤せざるを得ず、子ども達は少人数での保育となった。

保育所での保育の行い方は、厚生労働省子ども家庭局保育課の事務連絡や三鷹市子ども育成課の「新型コロナウイルス感染対策における保育の基本的な考え方」に従った。

衛生面では日々清潔を心掛けた。アルコールや次亜塩素酸水溶液による消毒に力を入れた。備品は補助金を活用し、小型オゾン除菌器を設置したり、サーマルカメラシステムの導入を行った。また、消毒用アルコールや、使い捨て手袋、職員用サージカルマスクなど、消耗品も切らすことなく購入し、安全な保育に努めた。そのかいあり、園児、保護者、職員ともに感染症の発症者は出なかった。行事は縮小して実施したものの、普段の保育では過剰に神経質にはならず、子ども同士の触れ合いや保育者との愛着関係を大切に生活を送った。

コロナ禍において、保育園用ITC業務支援システムを有効に活用し、長期欠席している家庭にも月々のお便りや急なお知らせを届けることができた。一方、家庭からの連絡や様子を把握することができるため、保護者との情報交換のツールとして大変便利であった。

一時預かり事業は4月から6月は三鷹市より要請があり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ご利用を勤務、緊急時のみの方に制限した。その後は通常通りのお預りを行った。また地域に対する保育園の役割と責任として、保育実習生とモンテッソーリ教育研究所教員養成コースの実習生受け入れなど次世代育成支援にも努めた。

#### 重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- VI 椎の実子供の家園舎建替事業

## I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

0歳～2歳児はモンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。散歩にも積極的に出かけ、中央公園や、ひよこ公園、こだま公園と近隣の公園を活用した。

3、4、5歳児は、混合クラスで過ごすことで、年長児が年下の子をお世話することで、思いやりや憧れの心を育むことができた。

年間を通じて就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をきれいに書く練習やひらがなの練習など、就学前の準備を行った。歌が上手なクラスで、歌詞の内容がやや難しいものでもどんどん吸収していき、卒園式で披露することができた。また小学校に進学するにあたっては、マスクの着脱や管理の仕方を練習した。

## II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

お便り等を活用し、保育園の活動の目的や成果を知らせ、保育に関する理解や興味を持っていただけるよう努力した。保護者会やクラス懇談会などは行えなかったが、日々の生活の中でコミュニケーションに努めた。個人面談は必要に応じて対面で行い、お子さんに対する共通理解を図った。

## III 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

次世代を担う保育士の育成として、子ども一人ひとり今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。保育はチームで行うものなので、職員会議などで保育感をそろえるよう努めた。また、働きやすい職場は、自分達自信で作り上げていくものであることを会議や面談などで繰り返し確認しあった。副主任以上には、人材育成の仕方や重要性について、場面に応じて伝えていった。

幼児教育機関として、市内の各施設との連携も行った。特に子ども発達支援センターの巡回指導を可能な限り活用し、発達に課題のある子は専門機関に繋げることに努めた。職員も課題がある子をどのタイミングでどこに繋ぐべきか、具体的な対応に自信を持つことができた。

またモンテッソーリ教員資格取得については、法人による学費助成制度を活用し、学びに励んでいた1名の保育士が3～5歳児モンテッソーリ教育のコースを修了することができた。また通信で学んでいた1名の職員が乳児コースの修了試験に合格し、資格を取得することができた。通信の幼児コースは新型コロナウイルス感染症の影響で、スクーリングと修了試験が実施されず、令和3年度に持ち越しとなった。

## IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

新型コロナウイルス感染症対策として、施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。インフルエンザや胃腸炎等の感染症については、初期対応の徹底により流行することは無かった。園では職員の手洗いの更なる励行と、マスクの着用を徹底して行った。また、保護者への手指消毒とマスクの着用を義務付けた。保育室は換気を心掛けた。給食の食べ方も工夫を行い、子ども同士の距離を開けたり、食事を見守る保育士は必ずマスクを着けて介助を行った。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた結果、誤食は無かった。

V 椎の実子供の家園舎建替事業

平成27年度から5か年計画で取り組んできた新園舎建設プロジェクトは、実施設計の完了を経て、いよいよ着工が始まった。令和2年12月には仮設園舎が完成し、子ども達の生活の場が仮設園舎へ移転した。建築業者は入札により決定し、設計会社とはエントランス、各保育室の構造、壁面や建具についての打ち合わせを行った。

新施設のイメージは「地域・自然と共生する保育所」「モンテッソーリ教育を推進する保育所」地域と密着した次世代に求められる施設づくりを目指すものである。地域子育て支援拠点事業（ひろば事業）の運営は保育士が中心になり事業計画を構想中。地域交流サロンの事業展開については、地域包括支援センターと両園からメンバーを選出し、地域公益事業プロジェクトを発足し、事業内容について検討を行った。

1 園児について

園児とクラス編成

- (1) 定員 120名
- (2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名  
④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名
- (3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 主任 2名 保育士 20名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 2名 非常勤職員 20名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	120名	17名	
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名	48名